

財 團 東 洋 文 庫 年 報
法 人

昭 和 49 年 度

財 團 法 人 東 洋 文 庫

財団法人 東洋文庫年報 昭和49年度

目 次

I 昭和49年度の東洋文庫	3
II 図書事業	7
1. 図書の収集・整理と閲覧	7
2. 図書の整理と閲覧	8
3. 資料複製増刷サービス	9
4. 展示会	9
III 研究事業	10
1. 調査研究	10
i 文部省科学研究費による調査研究	10
ii 一般調査研究	11
iii 特別調査研究	13
iv 研究委員会	15
2. 学術図書出版	16
3. 講演会	17
4. 研究会	17
5. 研究者養成	18
6. 国内・国外研究者への便宜供与	18
7. 職員の研究業績	18
IV 東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター事業	26
1. 調査研究	26
2. 連絡および情報交換	28
3. 資料の収集・整理	30

4. 學術圖書出版	30
5. 研究会	31
6. 語学講習会	31
7. 国際交流	31
V 業務報告	33
1. 庶務報告	33
2. 人事報告	36
3. 会計報告	38
附 役職員名簿	40

I 昭和49年度の東洋文庫

(I)

昭和49年度の東洋文庫について、まず特筆すべきことは、辻直四郎氏が財団法人東洋文庫理事長に就任せられたことである。

第5代理事長細川護立氏が昭和45年11月18日逝去せられて以来、専務理事榎一雄氏が理事長代理をつとめていたが、昭和49年4月1日附で財団法人東洋文庫図書部長であり、国立国会図書館支部東洋文庫長である辻直四郎氏が理事長に就任せられた。これにともなって、榎一雄氏が図書部長と国立国会図書館支部東洋文庫長を兼ね、さらにそれまで辻氏の兼ねておられた財団附置のユネスコ東アジア文化研究センター所長にも榎氏が就任することになった。

東洋文庫長という職名は国立国会図書館のもので、財団法人東洋文庫のものではないが、インド学、特にヴェーダ研究の世界的権威として、日本学士院会員・英国学士院(The British Academy)会員であるのを始め、古代インド学関係のいくつかの国際学会の会長或いは副会長をつとめておられる辻博士の理事長就任は名実ともに博士を長とする東洋文庫の出発を示すものというべきである。博士がますます御健康で、長く東洋文庫の発展を指導せられることを期待する。

このように、昭和49年は東洋文庫に新しい時代の開幕を告げる年度であるが、一方、それは東洋文庫主事として、大正13年、財団法人設立以来(否、正しくは大正7年モリソン文庫渡来以来)、その運営に尽瘁して来られた石田幹之助氏(1891. 12. 28—1974. 5. 25)の死去せられた年ともなった。享年83。短命であったとは言い難いとしても、我が東洋史学界の長老として、その幅広い知識を以て後輩を指導して来られた博士の逝去は、償い難い学界の損失である。博士は、昭和9年4月、東洋文庫を退かれたが、その後40年を経過した今日でも、一たび東洋文庫の書庫に入れば、なお収書に寄せられた博士の熱意が脈々として伝えられているのを感じる。東洋文庫の蔵書は2万4千冊のモリソン旧蔵の欧文書籍を基礎としているが、その後追加せられた欧文本及び漢籍を始めとするアジア諸国語の書物を加えると、今日では少くともその30倍に達している。それらは欧文書籍のみで19部門、アジア諸国語のものは、漢籍だけでも経・史・子・集の4部に加えるに叢書・雑誌の2部を以てする6部に亘り、しかもそれらの各部門は更に多くの小部門に細分されている。新刊の中からこれら何十かの部門に属する図書を選択し、追加して行くことは、余程の知識と見識とがあって始めて

可能である。否、追加を要するのは必ずしも新刊に限らない。旧刊の中にも補うべきものが少くない。殊に欧文書の第一部門に分類されている一般参考書はいわば人文科学・社会科学に関する各方面の最近の、最も標準的な知見を盛った図書の蒐集を目標としている。これら文字通り凡百の種類の選定に石田博士の傾けられた熱意には誠に驚嘆すべきものがある。「こんなものまで集めて置いて下さったのか」と博士の周到的な配慮に感謝すること、今日でもなお一再に止らない。また、博士は時に自身の蔵書を割いて東洋文庫の欠を補っている。博士自身の蔵書の内容については、終に知る機会がなかったが、博士は東洋文庫を自身の書庫とし書齋として慈んでこられたのであろう。今、博士の長逝に遭い、更めて東洋文庫の育成についての功績とそれを通じての東洋学界への大きな寄与とを追懐して、哀惜の情に堪えない。

博士の学績と略伝については、石田博士頌寿記念東洋史論叢（昭和40年8月、石田博士頌寿記念事業会刊）及び石田幹之助博士著作目録（国学院雑誌第77巻第3号）、石田幹之助博士の訃（東方学第49輯）等を参照せられたい。

（Ⅱ）

戦前には稀書珍籍の獲得をめぐるいくつかの逸話が伝えられていた。それは掘出物と呼ばれる、書買が適々その価値に気づかず低い値をつけて置いたものを、具眼の士が見つけて入手したり、具眼によるのではないけれども偶然に買って後で貴重なものと判ったりした話、或いは公私收藏の不完本の残部を見つけてそれを完全にした話、何人かの希望者が一書の購入について鎬を削った話、これまで知られなかった写本や古版本を見つけ出した話、又、愛惜するの余り、他人や古社寺宝蔵の書籍を研究調査に名をかりて借用し自己の所有にしてしまった話などがその主なものである。中には、自分の考説を証拠立てるために、存りもしない古版本を在ると称し、そこえ案内しろと迫まれて、已むを得ず同道し、途中で姿をくらましたという猛者の話もある。それらは書林の清話として優に一篇を成すに足りるものであろう。

このたびの戦争直後には珍しいものが少からず市場に出たようであるが、近年はそうした出物は殆どないようである。殊に相当頻繁に開かれる古書展は、書籍はほんのつけたしで、名家の書画の類を中心にしたものが大部分であり、しかもその価格たるや6桁7桁に及ぶものが珍らしくない。欧文の古書にしても、歐洲の書肆で買う方が遥かに安い。一体、書物は誰のためにあるのかといたい。書籍獲得をめぐる逸話も戦前とは趣を異にし、どこが或いは誰が何百万円・何千万円のものを買ったかという数値に興味が集まる場合が多いようである。こうなると、書林の清話というよりは、日本新永代蔵の一章たるにより相応しいであろう。

こうした殺風景な古本市場に一陣の清風を吹き込むかに見えるのは、いわゆる古書

の複製である。複製技術の進歩によって、これまで秘閣の奥深く蔵せられていた古写本・古版本の類が続々と複製せられて、学者の机辺に殺到しようとしている。これにはそうした貴重資料の所蔵者が快くよく協力している。東洋文庫はこれまでもその出版物の中に東洋文庫叢刊の一門を設けて自ら複製及びその研究の刊行を行い、更に外部の研究者に底本を貸与し、複製を許し、校勘の資料を提供して来た。それは今後も続けられる筈であるが、昭和46年以来、日本古典文学会の監修・編集のもとに日本古典文学刊行会から刊行せられている複製日本古典文学館の中の日本書紀卷廿二（推古天皇紀）・卷廿四（皇極天皇紀）、ただとる山のほとゝぎす（赤本）・金々先生栄花夢（黄表紙）・丹波爺打栗（黒本）の2軸・6冊は東洋文庫の蔵本で、この中、日本書紀は国宝に指定されているものである。

昭和49年には、同じ監修者・編集者・刊行者によって岩崎文庫貴重本叢刊近世篇が刊行せられた。これは東洋文庫の中に岩崎文庫として別置せられている貴重書の中から、幸若舞曲15種（中、丹録本4種）、御伽草子3種（中、丹録本2種）、仮名草子8種、浮世草子11種、菱川師宣絵本9種、草双紙赤本・黒本・青本・黄表紙・合巻合せて27種（計73種）、それに草双紙の表紙に貼る絵外題の初期から末期に亙る絵様と版技法とを代表するもの2千点を選んで影印したものである。それは内容において室町時代から江戸時代中期に及ぶ近世文学の発達を示すのみならず、形式において従来の影印方式を一步前進させて、彩色部分を原色で再現し、丹録本の挿絵、自筆稿本における朱注・補筆、絵外題を原寸・原色により実物通り再現した点、これまでになかったものである。実は東洋文庫は、昭和45年、好色小柴垣・中華若木鈔の影印を刊行したが、後援続かず、専門家を失望させていた。岩崎文庫本貴重本叢刊はこうした学界の渴望を一挙に癒したものである。我等はその編纂刊行に当られた人々の辛勞を心から多とするものである。

研究部では特にチベット研究の整備に注目すべきである。東洋文庫の所有するチベット文典籍が如何に豊富であるかは、先年刊行された歴史関係のもの目録を見ただけでも十分理解出来る。殊に近年ドラマ治下のチベット人によってしきりに影印刊行せられている書籍の類を鋭意蒐集して、コレクションの完璧を期している点は、注目に値する。日本の国内にはチベット文典籍の豊富な蔵儲を以て聞えたところが他にもあるのであるが、その利用は極めて少数の特定の人々に限られているようであって、部外者へのマイクロフィルム・ゼロックス等による複写の提供など、思いも及ばないのが実情である。我等は当事の人々の貴重文献保存に寄せられる熱意を高く評価するものであるが、それは必ずしもチベット学の振興に直接つながらない。東洋文庫はここに見る所あって、夙にすべての典籍の閲覧複写に出来る限りの便宜を提供して来た。利用者も亦その志を諒として、文献の保全に能うる限り慎重であることを期してほしい。

なお、ゼロックスが書籍の利用に与えている便益の大きさは測り知れない。それ

は筆写に数十時間を要するものを、殆ど瞬時にして利用者へ提供してくれる。数十万金を抛たねば入手出来ない稀観書をその数十分の一或いは数百分の一の費用で座右に備えることを可能にしてくれる。しかし、一枚刷りかそれに近いものは別として、製本されている書籍は、数回のゼロックス撮影によって、見る影もない、憐な姿にされてしまう。諸行無常、会者定離。モリソン以来の伝統を誇る東洋文庫の凝った製本も、綴じ糸は切れ、背皮は離れ、立てればよろめき、横にすれば毛羽立ちや断丁が眼にも鮮かである。ゼロックスの利用がこの勢で続けば、全世界の図書館が書籍の廢墟化する日も、さして遠くはないであろう。新刊の花が咲乱れる足下に、先人の知識の精粹を伝える旧籍が死屍累々と横たわって行く感じである。嘗て旧都奈良の仏寺の荒廢を嘆いた或る詩人は「伽藍寂寞、朱柱たまたま傾き、巫壁ときに破れ、寒鼠は梁上に鳴き、香煙は床上に絶ゆるの状を想起して、愴然これを久しうす。おもふに、かくの如き仏国の荒廢は、諸経もいまだ説かざりしところ」と記したが、20世紀末の図書館は、堂宇は莊麗に、什器は善美を尽し、冬は暖く、夏は涼しいが、肝腎の書物が廢紙の固りようになりつつあるのである。誰か愴然たらざるなきを得んや。我等は図書館からゼロックスを追放せよと声を大にして叫びたいのである。

なお、本年度には大きな共同研究のプロジェクトとして、いずれもユネスコ東アジア文化研究センターの事業ではあるが、東アジア諸国における近代的国民文学の形成、同じく東アジア諸国における初等教育と伝統文化との関係の二つが採り上げられたことを記して置く。

Ⅱ 図書事業

1. 図書の収集・整理と閲覧

購入・交換・受贈の手段を通して収集をはかった資料は、一般文献資料のほか、特に中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料がある。昭和49年度末現在の蔵書数は571,568冊となった。

・資料購入

	和漢書	洋書	複写資料	計
一般文献資料	214冊	95冊	0騎	309
中央アジア特別研究資料	0	579	0	579
東アジア特別研究資料	852	89	7,523	8,464
西アジア特別研究資料	0	1,225	257	1,482
計	1,066	1,988	7,780	10,834

・資料交換

	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋書	計	国内	国外	計
単行本	1,218冊	584冊	1,802冊	909冊	1,436冊	2,345冊
定期刊行物	2,033 (新聞10種)	897	2,930 (新聞10種)	0	0	0
計	3,251	1,481	4,732	909	1,436	2,345

・受贈図書のうち、まとまったものとして、昭和49年10月24日、山本幸子氏からの塩川一太郎氏関係文書等42部46冊2葉がある。

2. 図書の整理と閲覧

・製本数量内訳

本年度の製本施工数量は下記の通りである。

	単行本	定期刊行物	複写資料製本	複写資料製帙	その他
数量(冊)	10	198	707	677	142

・図書利用状況

本年度の所蔵図書の利用状況ならびに内訳は次の通りであった。

月	開館日数	閲覧人数	一日平均	昨年同月との比 (△印は減)	閲覧書数	一日平均	昨年同月との比 (△印は減)
4	24日	305人	13人	75	4,226	175	916
5	24	437	18	23	6,176	257	△288
6	24	448	18	△ 7	6,097	254	33
7	26	523	20	19	9,011	247	△320
8	26	548	21	△ 36	10,018	385	2,035
9	22	421	19	△ 21	8,206	432	2,776
10	25	545	22	△ 48	8,081	323	△ 56
11	22	455	20	△ 39	7,796	354	679
12	22	428	19	△ 13	7,677	349	275
1	21	260	12	△ 15	3,778	180	△238
2	22	295	13	46	4,723	215	143
3	24	329	13	△ 8	5,142	214	624
計	272	4,994	17		80,931	282	

・閲覧図書数内訳

	和 書		漢 籍		洋 書		合 計	
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数
4	230	550	551	3,334	208	342	989	4,226
5	363	549	790	5,268	221	359	1,374	6,176
6	238	522	751	5,163	246	412	1,235	6,097
7	336	632	1,148	7,947	317	432	1,801	9,011

8	446	1,039	1,248	8,455	329	524	2,023	10,018
9	300	927	929	6,743	239	536	1,468	8,206
10	360	755	961	6,346	317	980	1,638	8,081
11	292	739	895	6,563	243	494	1,430	7,796
12	298	601	932	6,811	166	265	1,396	7,677
1	249	428	577	2,923	144	427	970	3,778
2	204	533	523	3,944	128	246	855	4,723
3	244	499	623	4,348	162	295	1,029	5,142
計	3,560	7,774	9,928	67,845	2,720	5,312	16,208	80,931

3. 資料複製増刷サービス

内外研究者・研究機関の閲覧・利用の便に供するために行なったもので、実績は下記の通りであった。

・マイクロ・フィルム

申 込 件 数	撮 影 コ マ 数	焼 付 引 伸 枚 数	ポ ジ 作 製 コ マ 数
694	84,222	94,443	100,580

・電子複写

申 込 件 数	撮 影 枚 数
1,371	90,828

4. 展 示 会

財団法人東洋文庫は設立50周年を迎えたので、記念事業の一つとして例年に比し、大規模な展示会を企画したが、図書を選択、解説目録等の準備がおくれたため未開催に終わったが、12月6日、文部省主催の第3回漢籍担当職員講習会のための漢籍展示会を行ない、鈔本、整版、殿版、多色刷、活字と銅版等34点を展示した。

Ⅲ 研究事業

1. 調査研究

調査研究は、文部省科学研究費によるものと、文部省民間学術研究機関補助金による一般・特別調査研究とにわかれる。

i 文部省科学研究費による調査研究

一般研究A

【課題】南アジアにおける文化変容の研究および資料の収集

【期間】昭和49年度

【目的】南アジア史の各時代に於ける文化変容を各国史の枠を越えて南アジア史全体の立場から把えてゆく。また研究の過程で南アジア史研究の基本資料の収集につとめる。

【事業】①研究分担者を古代班、中世班、近・現代班の3班に分け、各時代の文化変容を研究した。

②研究会を開き、分担者相互に密接な連絡をとりながら研究を進めた。

③基本資料の収集を組織的行なった。

【代表者】榎 一雄

【分担者】①古代班（インド文化の成立とその伝播）

榎 一雄，辻 直四郎，金子良太，後藤均平，山口端鳳，山崎元一。

②中世班（イスラム文化の伝来と基層文化の変容）

護 雅夫，土肥義和，後藤 明，花田宇秋。

③近・現代班（ヨーロッパ文化の伝来と南アジア文化の変容）

山本達郎，市古宙三，北村 甫，田中正俊，生田 滋。

一般研究D

【課題】明代の地方行政区劃府・州・県の地理的沿革に関する研究

【期間】昭和49年度

【目的】本研究は、明代の基本的行政区劃である府・州・県に限ってその地理的沿革

を明代に限って考訂し、明代地方行政区劃の沿革の一端を明らかにしようとしたものである。

【事業】①史料の蒐集

(i)明代地方行政区劃の概要を知る上での基本図書からの史料蒐集、実録・会典・政書・類書・地理書等。

(ii)地方志を中心とした個別府・州・県についての史料蒐集、従来我国に将来された明代の地方志は、約300種類に達するが、これらの地方志は、東京・京都・名古屋・天理等に分散収蔵されている。このため、京都・名古屋・天理への調査旅行が必要であり、かつ短期間の調査旅行を有効ならしめるために、筆写と平行して写真複写することが望ましい。近来、東洋文庫において、北平図書館善本のマイクロ・フィルムを購入し、その一部については、焼付・製本がなされている。しかしながら、相当部分については、未だマイクロ・フィルムのままであり、その利用を困難にしている。このため、重要資料については、写真複写することが望ましい。

②史料の整理・研究

【代表者】鶴見尚弘

特定研究(2)

【課題】両大戦間の中国をめぐる国際情勢

【期間】昭和49年度

【目的】両大戦間の中国革命を規定した要因を①社会経済、②政治外交の二側面から国際的情況の中で分析・研究する。

【事業】共産党班——広州コミュニオン、江西ソビエト等

国民党班——中山盤事件、西安事変等の、国際環境との相互連関に関する研究と資料収集

【代表者】市古宙三

【分担者】①国民党班：市古宙三、神田信夫、山根幸夫。

②共産党班：鶴見尚弘、本庄比佐子、小野田サヨ子。

ii 一般調査研究

東亜考古学研究委員会

【資料の整理・分類】梅原末治氏寄贈の東亜考古学資料中の日本関係資料の時代別分類、それらの諸項目(遺跡・遺物等)ごとの整理、目録カードの補充。

古代史研究委員会

【講読・研究】西周金文(西周文辞大系)の講読、および、経学・言語学・考古学・

歴史学からの総合的研究。

唐代史(敦煌文献)研究委員会

【国内・国外に現存する西域出土古文書・古文書の所在調査、マイクロ・フィルムによる収集、収集資料の公開、情報提供】(1)パリ国立図書館蔵ペリオ蒐集敦煌文献のうち、我が国の研究者が注文将来されたもので、本年度、当文庫にマイクロ・フィルムのかたちで寄贈を受けたものは、220点(うち、43点は既収集本と重複する)である。それらには、大藏経未収の仏典関係・禅宗関係文献、文学文献、寺院経済・社関係等文書が含まれている。個人別にみると、柳田聖山氏の28点(漢文9点、チベット文19点、重複2点)、石塚晴通氏の192点(漢文、重複41点)となる。

宋代史研究委員会

【索引・文献目録等の作成出版】(1)『宋代史年表(南宋篇)』の完成。(2)宋会要輯稿食貨の語彙索引、増補ならびに事項の要約編成(増補継続中)。【情報活動】宋代研究文献速報、57、58、59号の作成。

明代史研究委員会

(1)『中国土地契約文書資料集(金一清)』186ページを印刷・刊行した。(2)前年度に引き続き、明代農民起義に関する文献の講読・研究を行なった。

近代日本研究委員会

本委員会は、また、近代日本語の形成に係わる諸要因の究明に主目標を置いて、次の様な活動をしてきた。

【研究】東洋文庫蔵の古写本「史記桃源抄」および、古活字版「中華若木詩抄」を中心とした各種抄物の言語研究。本年度はことに、「中華若木詩抄」の各種古写本・古刊本の相互比較研究を行ない、諸本校異の作成に当った。【講読】近年新たに知られるようになった書陵部蔵の抄物古写本「成句弁覧」を講読した。

近代中国研究委員会

【出版】『東洋文庫別置近代中国関係欧文図書目録』

【図書収集】中国文 643 点、日本文 524 点、欧文 266 点、マイクロ・フィルム23点、

【研究】両大戦間の中国をめぐる国際情勢、中国共産党資料の書誌学的研究。

満州・蒙古(清代史)研究委員会

【研究】さきに刊行した『満文老檔Ⅰ—VⅡ』(昭和30~38年)の原拠文書集である『旧満洲檔』(台北、民国58年)の研究を引続き行なった。とくに『旧満洲檔天聰九年2』

の原稿完成のため、1974年8月、台北に4週間滞在して、故宫博物院において原本と対校した。なお前に刊行した『同書1』併わせて固有名詞索引を作成した。【出版】『旧満洲檔天聡九年2』。【講読】前年度に引き続き毎週一回『奏疏稿』（一名『天聡朝臣工奏議』）の輪読を行なった。

朝鮮研究委員会

【講読・索引の作成】朝鮮法制書の講読、索引の作成：「大典統録」の語彙索引のカード化を完成し、その校正を完了した。また「後統録」の語彙索引のカード化を完了した。【資料の調査・収集】(1)李氏朝鮮民政関係史料の収集・整理・地方郷邑の自治組織及び財政資料を収集した。また郷規（自治組織規約）及び地方官衙の郷任の調査を行なった。(2)慶尚道方言調査を行ない、その資料明治末より大正年間発行五万分の一地形図より古地名の採録を行なった。

中央アジア・イスラム研究委員会

【資料の収集・整理】(1)イスラム諸国の現地語文献の講入と整理。(2)北アジア・中央アジア・イスラム史に関するロシア語文献の購入と整理。(3)ソ連発行のバック・ナンバーのマイクロ・フィルム化と整理。【研究】(1)トルコ民族のイスラム化に関する研究。(2)西アジア史におけるイスラム時代の意義の研究。(3)トルコと日本の「近代化」に関する比較研究。(4)ソ連領中央アジア史の研究。(5)アラブの中央アジア征服に関する研究。(6)東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所における『アルタイ学辞典』の編集への協力（昭和47年度以降）。

南方史研究委員会

【資料の収集】昭和49年度文部省科学研究費（一般研究A）を受け、東南アジア・インド関係の資料を収集した。【研究】各委員の専門分野の個別研究。【情報交換】他の研究機関・研究者との情報交換。【編集】①東洋文庫蔵インド・東南アジア文献分類目録の編集：目録編集の予備作業として、昭和25年刊東洋文庫洋書分類目録第四巻印度の収録書以降に受入れたインド関係の洋書、並びに東南アジア関係の全洋書の分類別・著者名別のカード化を完了した。ついで、1975年3月迄の新規購入の未整理本の整理及びカード化を完了し、雑誌とその収録論文、及び和漢書のカード化を行なった。

iii 特別調査研究

チベット研究委員会

チベット研究委員会は、昭和36年度にインドからチベット人研究協力者3名を招聘し、以来「チベット人との協同によるチベットの言語・歴史・宗教・社会の総合的研

究」を実施して来た。昭和43年度からは、その新たな展開と充実を企図し、東洋文庫に対する文部省補助金によるチベット特別調査研究を開始した。研究テーマ「チベットの歴史と文化の系統」は対象とする時代を年度別に下記のように設定し、チベットの文化、社会の諸相について、周辺諸地域の文化、社会と比較しつつ、その特質を究明しようとするものである。

昭和43～45年度：古代チベット（7世紀以前，7～10世紀）

昭和46・47年度：中世チベット（10～14世紀）

昭和48・49年度：近世チベット（15～17世紀）

昭和50・51年度：近代チベット（18～19世紀）

昭和52年度：現代チベット（20世紀）

昭和49年度近世チベット（16～17世紀）調査研究報告

〔歴史班〕榎 一雄，山口瑞鳳，金子良太

〔宗教班〕山口瑞鳳，川崎信定，立川武蔵

〔言語班〕北村 甫，星 実千代

〔チベット人研究協力者〕ソナム・ギャツオ，ガワン・トゥンドゥブ・ナルキー

I 歴史班担当

ツォンカパの興したゲールク派と、在来宗派との政治的対立に至る経緯と、その歴史的背景の研究、およびダライラマ政権、蒙古諸部族、清朝の三者における政治的關係を究明することを目的として研究をすすめる、次の点を明らかにした。改革派ゲールク派の支持勢力は、トゥメット部との連携を意図し、アルタン汗の曾孫のひとりダライラマ4世（1589—1616）に指名して旧派仏教徒一般の反撥を招き、彼らを代表するカルマ紅帽派は林丹汗やカルカのチョクトゥ汗と連合する結果を生んだ。やがてトゥメットが凋落するとともにゲールク派は窮地に陥り、かわりにオイラトのホショット部と連携する。オイラトの固始汗は青海に移住し、チョクトゥ汗を滅し、ベリ・ドゥンヨ勢力を制圧した後、1641年、ツァンのチベット政府を転覆、1642年、ダライラマ政府を樹立した。

II 宗教班担当

改革派に対立したカギユ派の教義が、16・17世紀にどのような経過をたどって発展したかを究明することを目的として研究を進めた。カギユ派の教義は、ガンポパ以来、タントラ実践主義に戒律の枠をはめ、僧院仏教化していった。もちろんカルマ派一般も同様な傾向をもっていた。この事実はワンチュク・ドルジェ（1556—1603）やカルワン・チューキ・ワンチュク（1584—1630）など旧派ラマの伝記を精査しても、具足戒をうけるまでに形式論理学をはじめとして顕教一般の学習が行われており、さらにその

学習書をみてもゲールク派の大ラマたちと何ら異なるところのないことが確認された。

Ⅲ 言語班担当

前年度に引き続き、ドゥクパ・クンレー（1455～1529）の自伝的歌集をテキストとし、そのカード化とカードへの見出し形態素、単語の記入とカードの整理を継続し、言語的分析を進めた。

Ⅳ 各班共同担当

昭和45・47年度海外学術調査：「インド・シッキム・ブータン・ネパールにおけるチベット文献の調査と収集」により収集したチベット文献のうち、リンチェンテルズ（宝蔵）の目録基礎カードの作成と点検が進行、同文献第42巻以降の書題800項目をカード化し点検整理した。また前年よりひきつゞきユンテン・ギャツオ全書の目録基礎カード作成を行い、これを終了した。さらに諸史料に基き、チベット歴史事典の補正を行っている。

Ⅴ 研究会

昭和48年度から東洋文庫チベット研究委員会主催の月例チベット研究会を東洋文庫においてひらき、研究活動および研究者の交流をはかっている。昭和49年度の研究報告は次の通りである。

- 第1回 4月20日 長野泰彦：インドに於けるチベット語調査から帰って
- 第2回 5月18日 山口瑞鳳：チベットの暦について
- 第3回 6月15日 金子良太：デモ泯滅考
- 第4回 11月16日 金子英一：ケサルの資料収集報告
- 第5回 12月7日 ウレ・シェリール：ラサ方言の所謂《トーン》について
- 第6回 1月25日 木村隆徳：サムエの宗論 P.116を中心に
- 第7回 2月15日 祖南 洋：サキャ派戒律書《三戒法》に基いた戒法の実践について
- 第8回 3月22日 榎 一雄：チベット民族における Theocracy の起源について

iv 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は、5部門12研究委員会にわかれる。昭和50年3月31日現在、研究委員会の常任委員は以下のとおりである。

第1部 中国研究

東亞考古学：梅原末治，小山 勲，関野 雄，渡辺兼庸
古代史：宇都木 章，河野六郎，後藤均平
唐代史(敦煌文献)：榎 一雄，菊池英夫，鈴木 俊，土肥義和，藤枝 晃，松本 明
宋代史：青山定雄，草野 靖，佐伯 富，周藤吉之，竺沙雅章，中嶋 敏
明代史：田中正俊，鶴見尚弘，山根幸夫
近代中国：市古宙三，滋賀秀三，田中正俊，坂野正高，山根幸夫

第2部 近代日本研究

近代日本：岩生成一，田中時彦，鳥海 靖，
亀井 孝，酒井憲二

第3部 東北アジア研究

満州・蒙古(清代史)：榎 一雄，岡田英弘，神田信夫，松村 潤
朝鮮：長 正統，菅野裕臣，河野六郎，末松保和，田川孝三，森岡 康

第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：榎 一雄，後藤 明，永田雄三，花田宇秋，護 雅夫
チベット：榎 一雄，金子良太，川崎信定，北村 甫，ケツン・サンポ，祖南 洋，
山口瑞鳳

第5部 インド・東南アジア

南方史：荒 松雄，生田 滋，岩生成一，榎 一雄，辻 直四郎，中島正之，松本
信広，三根谷 徹，山崎元一，山本達郎

2. 学術図書出版

B. 東洋文庫欧文紀要

Memoirs of the Research Department of The Toyo Bunko No.32. 1974年刊 B5
判 117頁

C. 東洋文庫叢刊

『旧満洲檔 天聰九年Ⅱ』昭和50年3月刊 B5判 本文384頁，索引78頁

E. 東洋文庫諸目録其他刊行物

『財団法人東洋文庫年報 昭和49年度』昭和50年3月刊 A5判 43頁
『財団法人東洋文庫書報 第6号』昭和50年3月刊 A5判 122頁

G. 東洋文庫各種委員会刊行物

宋史提要編纂協力委員会

『宋代史年表〔南宋〕』昭和49年6月刊 B5判 293頁

明代史研究委員会

『中国土地契約文書資料集〔金一清〕』昭和50年3月刊 B5判 212頁

近代中国研究委員会

『東洋文庫別置近代中国関係図書目録(欧文)』昭和49年7月刊 B5判 286頁

チベット研究委員会

“Sum rtags” 昭和48年 A5判 13頁

『西蔵仏教宗義研究 第1巻』昭和49年6月刊 B5判 166頁

3. 講演会

春期 東洋学講座 (第268回~272回)

大塚初重 「虎塚古墳と東国の装飾古墳」(5月21日)

後藤光一郎 「土器片は語る——パレスチナ考古学の方法——」(5月28日)

川村喜一 「エジプト・マルカタ遺跡と彩色段階の発見」(6月4日)

岡崎 敬 「沖の島発見の唐三彩」(6月11日)

梅原末治 「東亜の墓制上より見た日本上古の墓制に就ての所見」(6月14日,15日)

秋期 東洋学講座 (第273回~276回)

末松保和 「新羅の郡県について」(10月29日)

関野 雄 「中国考古学の現状(スライド使用)」(11月5日)

関 義城 「紙の歴史」(11月12日)

榎 一雄 「キャラヴァン貿易の歴史」(11月20日)

4. 研究会

志茂碩敏 「イル汗国成立後のアゼルバイジャン軍政府起源の軍隊について」(4月20日)

金 東旭 「朝鮮文学における春香伝」(5月25日)

松本 明 「隋唐の選挙制に関する諸問題」(6月8日)

菊地貴晴 「中国革命における第3勢力の成立と展開」(6月29日)

生田 滋 「第6回国際アジア歴史学会議に出席して」(10月26日)

大島正二 「敦煌文献中の音韻資料について——「礼記音」残巻を中心に——」（3月29日）

5. 研究者養成

朝鮮研究： 菅野裕臣【課題】朝鮮語の歴史的研究

中国研究： 松本 明【課題】唐代選挙制度の研究

イスラム研究： 花田宇秋【課題】イスラム第二次内乱の研究

6. 国内・国外研究者への便宜供与

日本学術振興流動研究員・奨励研究員

流動研究員

大島正二（北海道大学助教授）〔課題〕「敦煌文書中の音韻資料による唐代音韻の総合的研究」

7. 職員の研究業績

略号：①…著書 ②…編書 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介 ⑥…翻訳
⑦…講演・研究発表 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

青山定雄

③「宋代における華南官僚の系譜についてⅡ——特に揚子江下流域を中心として——」（宇野哲人先生白寿祝賀記念東洋学論叢，1974年10月）。

荒 松雄

⑧『飯塚浩二著作集』解説（平凡社，1974年），「聖者とまじわる」（図書8，32～37頁，岩波書店，1974年8月）。

生田 滋

③「東南アジアの建国神話」（『日本神話の比較研究』，201～267頁，法政大学出版社，1974年6月），「イエレミアス・ファン・フリートの記録したアユタヤ王国の建国神話について」（南島史学4，1～26頁，南島史学会，1974年4月），⑥「ダンカン・カスルレー著『大航海時代』」（『図説探検の世界史・1』，194頁，集英社，1974年）。

市古宙三

①『中国研究文献案内』（共著）（東京大学出版会，1974年4月，224頁），③「研究のための工具類」（『近代中国研究入門』，1～49頁，東京大学出版会，1974年4月），「太平天国女館考」（『村松博士追悼記念論文集——中国の政治と経済』，東洋経済新報社，1975年2月）。

岩生成一

③「鎖国後ジャカルタ残留日本人の故郷との音信」（南島史学5，1～27頁，南島史学会，1974年10月），「鎖国」（『歴史の視点』，中巻，55～78頁，日本放送出版協会，1950年3月），⑦「近世初期日本の海外貿易」（南島史学会大会，1974年11月）。

榎 一雄

③「シルク・ロードの実態（上・下）」（思想，第603号，605号，1294～1314頁，1743～1763頁，1974年9月，12月），「明末の肅州」（『宇野哲人先生白寿祝賀東洋学論叢』，281～302頁，同編集会刊，1974年10月），⑦「キャラヴァン貿易の歴史」（東洋文庫昭和49年度秋期東洋学講座講演，1974年11月20日，要旨は東洋文庫書報第6号，121～122頁），③「東洋学センターとしての東洋文庫」（財団法人東洋文庫年報，昭和43～47年度，3～6頁），「アジア文化の新しい認識（上・下）」（読売新聞夕刊，1974年5月8日・9日），「歷程の創刊に寄せて」（『歷程』，創刊号，5～8頁，東大文学部第二類歷程編纂委員会，1974年5月25日，「現下の教育についての五つの質問に答える」（『高校と教育』，第38号，2～3頁，福岡県教師会高校部会，1974年6月1日刊），「石田幹之助博士を偲ぶ」（国学院大学学報，第108号，3頁，1974年6月10日），「五十歳になった東洋文庫」（東京新聞夕刊，1974年6月7日，「石田幹之助博士の訃」（東方学，第49輯，148～163頁，1975年1月），「教科書裁判とその判決をめぐる」（文部時報，第167号，1974年8月），「敦煌文書の世界」（みすず，第179号，46～61頁，1974年10月），「敗戦」（新聞通信，第5799号，1975年1月）。

岡田英弘

①『旧満洲檔 天聰九年 2』（『東洋文庫叢刊』18 東洋文庫，1975年3月，302頁，神田信夫，松村潤と共著），③「ドルベン・オイラトの起源」（史学雑誌83—6，1～43頁，史学会，1974年6月）。

長 正統

③「湖陰雜稿と鄭士竜」（史淵112，185～197頁，九州大学文学部，1975年3月）。

川崎信定

③ “A Reference to Maga in the Tibetan Translation of the *Tarkajvāla*” 「印度学仏教学研究 23—2，1097～1103頁，1974年3月），「食欲にもとづくタントラ分類」（宗教研究49—3，94～95頁，1974年3月），⑤ “Yoshito S. Hakeda: *Kūkai; Major Works*”，（The Eastern Buddhist, new series, Vol. VII, No. 2,

129—132頁, Oct, 1974), “Madeleine Biardean: *Théorie de la Connaissance et philosophie de la Parole dans le Brahmanisme Classique*”, (The Journal of Intercultural Studies, Inaugural Number, Intercultural Research Institute, The Kansai University of Foreign Studies, Osaka, 1974), “Alex Wayman: *The Buddhist Tantras; Light on Indo-Tibetan Esotericism*” (印度学仏教学研究, 23—2, 956~959頁, 1974年3月), ⑤「河口慧海」, 「パスパ」, 「ソンツェンガムボ」, (『ジャポニカ国際百科大辞典・哲学思想篇』, 小学館, 1974年11月)。

神田信夫

②『荻生徂徠全集』2 (戸川芳郎共編, みすず書房, 1974年8月, 798頁), ⑤「国立故宫博物院故宮文献編輯委員會編『宮中檔光緒朝奏摺』」(東洋学報56—1, 52~55頁, 1964年6月)「護雅夫著『李陵』について」(栃木県立栃木商業高等学校『図書館紀要』9, 14~15頁, 1974年12月), ⑥『旧満洲檔天聰九年2』(松村潤・岡田英弘共訳註, 東洋文庫, 1975年3月, 300頁), ⑦「史部について」(東大東洋学文献センター漢籍講習会, 1974年12月3日), ⑧「旧満洲檔と天聰九年檔」(中央ユーラシア文化研究の課題と方法, 1~10頁, アルタイ学研究連絡組織, 1950年3月), “K'ang-hsi” (Encyclopaedia Britannica, 15th ed., vol. 10, pp. 379~381, 1974)。

菅野裕臣

①『ちようせんご』(共著)(朝日カルチャーセンター, 1974年4月, 80頁), ⑤「金炯秀著『蒙学三書研究Ⅰ』」(朝鮮学報74, 167~178頁, 朝鮮学会, 1975年1月)。

菊池英夫

④「日本に於ける中央アジア発見漢文古文書・古写本およびそれと関連ある中国古文書の研究」(史朋一号, 1~7頁, 北海道大学文学部東洋史談話会, 1974年10月), ⑤「砺波護『兩税法制定以前における客戶の税負担』, 曾我部静雄『いわゆる均田法における永業田について』」(法制史研究24, 法制史学会年報1974年, 229~230頁, 1975年3月)。

北村 甫

②『現代チベット語の会話——deng dus bod skad kyi bka' mol——』(祖南 洋, ガワン・トゥンドゥブ, 長野泰彦共編, 174頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1974年7月), 『現代チベット語の発音』(31頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1974年7月), 『チベット文字入門』(36頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1974年7月), ⑦「チベット語研究史をふりかえって」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所創立十周年記念公開講演会, 1974年6月19日; 同要旨『通信』22号, 3頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1974年10月)。

草野 靖

③「宋代奴婢妾問題の一斑」(『青山博士古稀記念宋代史論叢』, 71~98頁, 省心書房, 1974年9月), 「旧中国の田面慣行——田面の物質的基盤と法的慣習的諸権利——」(法文論叢36, 57~76頁, 熊本大学法文学会, 1975年3月)。

後藤 明

③「変転する歴史の中のアラブ」(アジア, 1974—5, 66~75頁, アジア評論社, 1974年5月), ⑦「日本とイスラム」(第12回日本私学教育研究所, 社会科研究会, 1974年10月31日), ⑧「アラビア世界の“発展”——魅するアラブの自覚」(自動車とその世界, 1974—5, 31~35頁, トヨタ自動車販売株式会社, 1974年5月)。

小山 勲

②『下総史料館特別展——大昔の紙敷』(下総史料館, 1974年10月), ⑦「朝鮮半島の新石器時代」(下総考古学研究会, 1974年4月), ⑧「下総史料館の紹介と活動」(MUSEUM ちば, 28頁, 千葉県博物館協会, 1974年3月)。

佐伯 富

①『塩と歴史』(皇学館大学講演叢書32輯, 30頁, 皇学館大学出版部, 1974年10月), ⑧「宋代都市の発達と住宅問題」(中国文明選No. 12月報, 4頁, 朝日新聞社, 1974年10月), 「中国近世における士大夫の研究」(第十一回三島海雲記念財団事業報告書(昭和48年度)三島海雲記念財団, 4頁, 1974年10月)。

酒井憲二

①『歌舞伎評判記集成』(翻字協力, 岩波書店, 1974年5月第5巻, 10月第6巻, 1975年3月第7巻), 『新明解国語辞典第二版』(編集協力, 三省堂, 1974年11月), ③「新猿楽記の語彙——付, 語彙索引——」(山梨県立女子短期大学紀要第8号, 75~112頁, 1975年3月)。

滋賀秀三

③「清代の司法に於ける判決の性格——判決の確定という觀念の不存在」(法学協会雑誌91—8, 47~96頁, 92—1, 1~64頁, 法学協会, 1974年8月, 1975年1月), “Criminal Procedure in the Ch'ing Dynasty—With Emphasis on its Administrative Character and Some Allusion to its Historical Antecedents (I)” (Memoirs of the Research Department of The Toyo Bunko, No. 32, pp. 1~45, 1974), ⑧「清朝の法制」(坂野正高等編『近代中国研究入門』, 271~318頁, 東京大学出版会, 1974年4月)。

末松保和

③「黑板勝美先生の朝鮮古蹟調査」(『黑板勝美先生遺文』, 129~138頁, 吉川弘文館, 1974年9月), 「新羅の郡県制, 特にその完成期の二三の問題」(『学習院大学文

学部研究年報』第21輯，61～135頁，1950年3月），⑦「新羅の郡県，特にその完成期について」（東洋文庫，昭和49年度秋期東洋学講座講演，1974年10月29日）。

周藤古之

①『五代・宋』（中嶋敏共著、『中国の歴史』5，14～86頁，113～285頁，講談社，1974年10月），③「高麗初期の官吏制度—特に両府の宰相について」（東洋大学大学院紀要11，155～185頁，東洋大学，1975年3月）。⑦「高麗と宋との関係—宋側から見た官吏制度」（朝鮮学会公開講演，天理大学，1974年10月5日）。

鈴木 俊

⑧「先学を語る—池内宏博士—青山公亮・旗田巍・池内一・三上次男・窪徳忠の五氏と共に談」（東洋学四八，1974年7月），「私と東洋史」（歴史と地理二二七，1974年8月，「恩師池内先生のことどもなど」（歴史学研究戦前期復刻版，八，月報，1974年12月）。

関野 雄

④「中国における王墓と帝陵の発掘」（『中国の歴史』月報2，1～3頁，講談社，1974年6月），「中国考古学界の現状—充実した機構と組織」（読売新聞，1974年8月28日夕刊），⑤「佐藤武敏著『長安—古代中国と日本』」（日中文化交流212，20頁，日本中国文化交流協会，1974年12月），⑦「中国考古学界の現状」（東洋文庫東洋学講座，1974年11月5日，要旨：東洋文庫書報6，117～119頁，1975年3月），⑧「再現した2100年前の世界—“馬王堆漢墓”の意義」（宮川寅雄・岡崎敬・土居淑子と座談，朝日新聞，1974年8月4日朝刊），「中国の文物を訪ねて（上）—壮大な漢・武帝の茂陵」（北海タイムス，1974年9月20日朝刊），「序—『中国考古学大系』発刊にあたって」（鄭徳坤著・松崎寿和訳『中国考古学大系』1—先史時代の中国，5～6頁，雄山閣，1974年9月），「どえらいスケール—含嘉倉」（東京大学新聞，1974年10月7日），「原田淑人博士の訃」（史学雑誌84—2，86～87頁，史学会，1975年2月），「原田先生との旅の思い出」（考古学雑誌60—4，102～104頁，日本考古学会，1975年3月）。

田川孝三

④「京城帝国大学法文学部と朝鮮古文化」（京城大学創立五十周年記念同窓会誌『紺碧遙かに』，133—192頁，1974年11月），⑨「李朝期の影幀（肖像画）」（『李朝期の影幀と民衆画』（東京画廊主催の展示目録），6頁，1972年9月）。

田中時彦

②『お雇い外国人の国際的背景』（ユネスコ東アジア文化研究モニター編，『資料お雇い外国人』，9～31頁，小学館，1975年3月），⑥「ジョージ・アキタ・伊東巳代治論—不成功に終わった政治家の生涯」（本山他共訳，108～152頁，ミネルヴァ書房，1974年3月）。

竺沙雅章

- ③「喫菜事魔について」(『青山博士古稀記念宋代史論叢』, 239~262頁, 1974年9月), ⑤宋史提要編纂協力委員会編『宋代史年表(南史)』(史学雑誌84—2, 90~92頁, 1975年2月), ⑧「雍正帝と黄檗宗」(日中仏教創刊号, 9~11頁, 日中友好仏教協会, 1975年3月)。

辻 直四郎

- ①『サンスクリット文法』(xvi, 331頁, 岩波書店, 1974年4月, 第2刷1974年10月), ③「サンスクリット文学の特殊点」(日本学士院紀要32, 121~130頁, 1974年11月), 「サンスクリット語の入門書と辞書について」(丸善・月鑑72, 40~43頁, 1975年2月)。

鶴見尚弘

- ③「明初の地方行政区割, 府・州・県の沿革——『大明清類天文分野書』にもとづいて——」(稿)(二)(山梨県立女子短期大学紀要, 第8号, 23~38頁, 1975年3月)。

鳥海 靖

- ②『日本史の基礎知識』(黛弘道氏らと共編, 492頁, 有斐閣, 1974年12月), 『伊藤博文関係文書』第3巻(伊藤隆氏らと共編, 394頁, 塙書房, 1975年3月), ③“The Manhood Suffrage Question in Japan after the First World War” (Papers on Far Eastern History No. 11, P. 149—168, The Australian National University, March 1975.), ⑤「山梨県議会事務局『山梨県議会史』」第2巻(史学雑誌83—7, 94頁, 史学会, 1974年7月), ⑧「対談・歴史の中の青春群像」(笠原一男氏と, 『成人に贈る対話』, 151~184頁, 佼成出版社, 1975年1月)。

中嶋 敏

- ①『五代・宋』(周藤吉之共著『中国の歴史』V, 447頁, 講談社, 1974年10月), ⑧「滌京の当十銭と蘇州銭法の獄」(駿台史学36, 41~51頁, 駿台史学会, 1975年3月), 「中国史—中世, 宋」(『ブリタニカ国際大百科事典』, XIII, 113~119頁, TBS-BRITANNICA, Co., Ltd, 1974年6月)。

花田 宇秋

- ③「遊牧アラブとハワーリジュ派の発生」(オリエント16—2, 97~117頁, 日本オリエント学会, 1974年4月), ④「1973年の歴史学界—回視と展望—西アジア・北アフリカ」(史学雑誌83—5, 242~247頁, 史学会, 1974年5月), ⑧「これからのアラブ研究」(歴史教育研究57, 22~42頁, 歴史教育研究所, 1974年12月)。

坂野正高

- ②『近代中国研究入門』(田中正俊, 衛藤藩吉と共編, X+442頁, 東京大学出版会,

1974年4月), ③「駐清英国公使 ブルースのみた生麦事件のリチャードソン—プライベート・レターのおもしろさ」(『学会会報』, 723号, 4~8頁, 1974年4月), 「織田 万」(潮見俊隆・利谷信義共編『日本の法学者』, 129~147頁, 日本評論社, 『法学セミナー』増刊, 1974年6月), 『清僧格林沁奏疏略解』について」(故村松祐次教授追悼論文集『中国の政治と経済』, 33~55頁, 東洋経済新報社刊, 1975年1月), 「中国と日本——バートランド・ラッセルの『中国の問題』(1922年)をめぐる」(東京大学公開講座『アジアの中の日本』, 248~284頁, 東京大学出版会, 1975年3月)。

藤枝 晃

②『故園田湖城「江左窟印存後集」』(編並びに跋, 100葉, 京都, 同風印社, 1974年8月), ④「『文字の文化史』に至るまで」“アジア学の系譜”第2回(月刊アジア, 9~7, 110~123頁, アジア評論社, 1974年7月), ⑦「写本書誌学」(文部省・京大人文科研付属東洋学文献センター共催漢籍担当者講演会, 1974年5月29日, 「オアシスの都市国家・敦煌」(京大人文科研夏期講座, 1974年8月1日, 同上講演概要, 人文11号, 5~6頁, 京大人文科研, 1974年12月刊), 「三経義疏についての私見」(京大人文科研開所記念講演, 1974年11月20日, 同上講演摘録, 読売新聞“宗教”欄, 1974年12月28日, 同上講演概要, 人文13号掲載予定), 「三経義疏についての若干の問題」(聖徳太子研究会第10回学術大会公開講演, 1974年12月7日), 「敦煌学の現段階」(京大人文科研退官記念講座, 1975年3月24日), ⑧「閻魔堂狂言」“京を歩けば”106(三洋化成ニュース243号, 20~21頁, 京都三洋化成工業株式会社, 1974年4月), 「北野界限」“京を歩けば”107(三洋化成ニュース244号, 20~21頁, 京都三洋化成工業株式会社, 1974年5月), 「堀河古義堂」“京を歩けば”108(三洋化成ニュース245号, 20~21頁, 京都三洋化成工業株式会社, 1974年6月), 「二つの学会」(今西錦司全集第10巻折込月報, 4~6頁, 講談社, 1975年3月), 「探検・学問・異端」対談: 四手井綱英(朝日新聞京都版, 1975年3月25日)。

松村 潤

①『舊満洲檔——天聰九年2』(東洋文庫, 1975年3月, 200頁), ⑥「年表あれこれ」(月刊エコノミスト12, 15~16頁, 毎日新聞社, 1974年12月)。

松本信広

③「伝説の系譜」(講座古代学, 295~318頁, 中央公論社, 1975年1月), ⑤「大林太良編『稲作の神話』」(民族学研究, 39-1, 98~100頁, 日本民族学会, 1974年6月), ⑧“Japanese Mythology”(The fifteenth edition of Encyclopaedia Britannica, 97~100頁, 1974)。

護 雅夫

①『中国文明と内陸アジア——人類文化史4』(共著)(講談社, 1974年9月, 463

頁), ③『文化伝播』『文化交流』について(堀米庸三編『歴史学のすすめ』, 167~187頁, 筑摩書房, 1974年6月), 「トルコの支配からアラブの覚醒へ——アラブ・ナショナリズム——」(『アラブの世界——その歴史と文化——』, 151~219頁, 朝日新聞社, 1974年8月), ⑤「森浩一編『馬——日本古代文化の探求——』」(東京新聞, 1974年12月2日), ⑥ケマル・チュー「トプカプ・サライ博物館とその財宝」(トルコ語)(『中国陶磁——トプカプ・サライ・コレクション——』, 139~152頁, 平凡社, 1974年11月), ケマル・チュー「イスタンブール」(トルコ語)(『トルコの至宝』, 335~349頁, 毎日新聞社, 1973年11月), ⑦「オスマン帝国」(NHK ラジオ, 1974年1月8日), 「プハラ・ハン国」(NHKラジオ, 1974年1月20日), 「トルコの今昔」(NHKテレビ, 1974年10月1日), ⑧「トルコと日本」(『トルコの至宝』, 351~363頁, 毎日新聞社, 1973年11月), 「中近東の旅——統一性と多様性——」(『一枚の絵』, 10~11頁, 1974年5月), 「西アジア研究の一課題」(『今週の日本』, 1975年3月16日)。

山口瑞鳳

③「チベットの暦学」(鈴木学術財団『研究年報』, 10号, 77~94頁, 1974年5月)。

山崎元一

(昭和48年度) ③「クシャーナ朝史と貨幣」(歴史と地理1973-4, 19~26頁, 山川出版社), 「カースト起源論——学説の回顧を中心に——」(アジア経済14-9, 38~57頁, アジア経済研究所), 「古代インド史研究と伝説——アショーカー王伝説を例として——」(国学院雑誌75-3, 7~18頁), ⑧「古代インドにおけるカースト社会の成立」(アジア・レビュー1974-1, 朝日新聞社)。

山根幸夫

③「台湾協会の成立とその発展——日本植民政策の一側面——」(比較文化研究所紀要36, 49~77頁, 東京女子大学比較文化研究所, 1975年1月) ⑤「広池干九郎訓点・内田智雄補訂『大唐六典』」(東洋学報56-1, 49~52頁, 東洋学術協会, 1974年6月), 「日中関係史に関する最近の研究——批評と紹介——」(東京女子大学論集25-2, 121~124頁, 東京女子大学学会, 1975年3月), 「[資料紹介]胥吏缺讓渡文書」(明代史研究2, 57~62頁, 明代史研究会, 1975年3月), ⑧「明末農民起義文献目録」(明代史研究2, 50~56頁, 明代史研究会, 1975年3月), 「東洋学の専門図書館について——歴史学への招待, その3」(史論28, 55~61頁, 1975年3月), 「(宋代史論叢) 編集後記」(『青山博士古稀記念宋代史論叢』, 489~491頁, 省心書房, 1974年9月)。

山本達郎

③「敦煌地方に於ける均田制末期の田土の四至記載に関する考察(三)——四至を書きかえる手順——」(東方学48, 28~56頁, 1974年7月)。

Ⅳ 東洋文庫附置

ユネスコ東アジア文化研究センター事業

1. 調査研究

A. 「東アジア諸国の近代化の過程における伝統文化の変容とその新発展」

【年度】6ヶ年計画最終年度

【専門委員】河野六郎（委員長）、石井米雄、大野 徹、坂本恭章、佐々木重次、三根谷 徹。

【事業内容】本年度も昨年度にひきつづいて「東アジア諸国における 国語の形成と近代文学の誕生」の調査を目的とする第2期調査をおこなった。本年度は、インドネシア、ベトナム、クメール、ビルマから専門家を招聘（ベトナムの場合は在東京のセンター専門員）し、それぞれ以下の報告を受けた。

Indonesia : Djoko Kentjono (University of Indonesia), "Introduction to the Development of Bahasa Indonesia" (8月31日発表)

Vietnam : Nguyễn Khắc Kham (The Centre for East Asian Cultural Studies), "Vietnamese National Language and Vietnamese Modern Literature" (11月30日発表)

Khmer Republic : Duong Sarin (Ministre de la Culture), "Development of the Khmer National Language and Modern Literature" (1月16日発表)

Burma : Kyaw Swe (University of Rangoon), "Formation of the National Language and Development of Modern Literature" (3月26日発表)

なお、本調査研究は本年度で終了した。第2期調査研究の成果は50年度のセンター機関誌 *East Asian Cultural Studies*, Vol. XV に発表する予定である。

B. 「仏教美術に関する研究」

【事業内容】本調査研究は47年度で本調査を完了している。本年度は 昨年度にひきつづき平等院・鳳凰堂の総合学術調査の報告書作成の準備をおこなった。また、「世界における仏教美術研究の動向」の調査報告の一部を下記「連絡および情報交換」の項にあるとおり、機関誌 *East Asian Cultural Studies*, Vol. XIV に発表した。な

お、「日本における仏教美術研究の動向」の「中国・朝鮮」の部(長広敏雄)、「建築」の部(伊藤延男)、「彫刻」の部(西川新次)の調査が完了し、報告書を英文に翻訳した。

C. 「世界における東洋学の現状調査」

【年度】7ヶ年計画第3年度

【専門委員】護 雅夫(委員長)、金井 圓、北村 甫、武田幸男、田中正俊、鳥海靖、松村 潤、山崎元一。

【事業内容】本年度も昨年度にひきつづいて、「日本におけるアジア研究および日本研究の現状」の調査をおこない、日本研究の分野を19に、アジア研究の分野を27に分けたうち、以下の領域についての調査報告がそれぞれの専門家よりあった。

日本研究の部：文学古代A(稲岡耕二)、現代社会(稲上 毅)、教育学(仲 新)、文学古代B(篠原昭二)、人類学(末成道男)、宗教(田丸徳善)、中世史(石井 進)、考古学(佐藤達夫)、近世史(金井 圓)、美術史(柳沢 孝)。

アジア研究の部：中国哲学・思想・宗教(木全徳雄)、考古学(増田精一)、中国言語学(大河内康憲)、朝鮮史(武田幸男)、中国文学(前野直彬)、現代西アジア・北アフリカ(設楽國廣)、中国近代史(波多野善大)、美術史(高田 修)、現代東南アジアⅡ(友杉 孝)、言語学(梅田博之)、中国中世史(小山正明)。

なお、報告書の出版については次項「連絡および情報交換」の項を参照されたい。

D. 「現代アジア文明の地域的特色の比較研究」

【年度】2ヶ年計画最終年度

【専門委員】榎 一雄(委員長)、阿部 洋、馬越 徹、津田元一郎、豊田俊雄、弘中和彦。

【事業内容】本調査研究は、50年度より始める予定の長期調査研究計画の準備をおこなうために計画されたもので、本年度は「東アジア諸国の初等教育における自国文化の位置づけ」に関する調査を行なった。調査は、初等教育施設内の教育に限らず、学校外教育をも含め、教育制度や課目内容の検討ではなく、教育の本質を扱い、それぞれの国の自国文化の世代から世代への伝達についての専門委員による自由討論を中心におこなった。

E. 「アジアの口碑伝承に関する研究」

【期間】本調査研究は放送文化基金の援助金によって実施したもので、昭和49年9月より50年8月までの1年計画である。ここでは49年9月より、50年3月までの事業経

過を報告する。

【専門委員】大林太良（委員長）、荒木博之、大島建彦、坪井洋文、直江広治。

【事業内容】

④「口碑伝承研究の現状調査」

専門委員を中心とした以下の研究会を開催した。

第1回研究会：報告・荒木博之「日本における伝説研究の現状」（49年11月7日）

第2回研究会：報告・直江広治「中国の民間文芸研究」（49年12月21日）

第3回研究会：報告・崔 仁鶴「韓国における口碑伝承研究の現状」（50年1月17日）

第4回研究会：報告・大野 徹「ビルマの民話」（50年3月1日）

また、日本における口碑伝承研究団体一覧を作成するため、基本リストを作成した。

⑤「アジアの影絵劇の研究」

アジア諸国の影絵劇の現状と、その研究動向の調査のため、後藤 明研究員を、トルコ、エジプト、インド、マレーシア諸国に派遣した。

2. 連絡および情報交換

A. 文献目録等の作成

「日本における東洋学の回顧と展望——1963-1972」

Oriental Studies in Japan: Retrospect and Prospect, 1963-1972.

本書は上記調査研究「世界における東洋学の現状調査」の成果を英文で出版するもので、各専門領域毎に分冊で出版し、最後に合本する予定でいる。本年度は以下のものを出版した。

イ. 日本編

小松英雄著「言語学」*Linguistics*

仲 新 著「教育学」*Pedagogy*

稲上 毅著「現代社会」*Society of Post-war Japan*

ロ. アジア編

大林太良著「人類学」*Anthropology and Ethnology*

坂本是忠著「現代内陸アジア」*Modern Inner Asia*

太田幸夫・宇都木章・堀 敏一著「中国古代史」*History of Ancient China*

小玉新次郎著「西アジア・北アフリカ史A」*History of West Asia and North*

Africa (A)

梶村秀樹著「朝鮮史B」*History of Korea (B)*

辛島 昇著「南アジア史」*History of South Asia*

中村平次著「現代南アジア」*Contemporary South Asia*

前田専学著「インド哲学・文学・文献学」*Indian Philosophy and Literature*

増田精一著「考古学」*Archaeology*

木全徳雄著「中国哲学・思想・宗教」*Chinese Philosophy and Religion*

B. 図書の寄贈および交換

本年度も、例年どおり、センターの出版物を国内の主要大学、研究所および在日各国大使館等約200ヶ所、国外の主要大学、研究所、各国ユネスコ国内委員会等約200ヶ所に定期的に寄贈した。また国内の研究機関約50ヶ所、国外の研究機関約100ヶ所より定期的に出版物の寄贈を受けた。

C. 「日本における近代中国研究の現状」調査

【連絡委員】安藤彦太郎，市古宙三，今堀誠二，衛藤瀋吉，河内重造，鈴木中正，田中正俊，中村治兵衛，藤本 昭，堀川哲男，山田辰雄。

昨年度にひきつづいて、日本の近代中国研究者の姓名、住所、現職、専門領域、業績の調査をおこない、名簿と業績をカード化した。本カードを東洋文庫附置近代中国研究室の参考図書室におき、研究者の便に供した。

D. 機関誌 *East Asian Cultural Studies* (英文) の刊行

本年度は、Vol. XIV, Nos. 1-4 合併号 117頁を刊行した。内容は上記の調査研究「仏教美術に関する研究」の成果の一部である「世界における仏教美術研究の動向」の、韓国編、カンボジア・ラオス・ベトナム編、タイ編、インド編、アフガニスタン編、ソ連邦・東欧編、西欧編、南・北アメリカ編と、センターがユネスコに提出した、「日本における文化発展に関する研究動向」および「日本における口碑伝承研究の動向」に関する報告書である。この英文目次は以下のとおりである。

Trends in the Studies and Research on Buddhist Arts, 1960-1969

Korea, by Su Yǒng Hwang

Le Cambodge, le Laos et le Viêt-Nam, by Jean Boisselier

Thailand, by M. C. S. Diskul

India, by Niharranjan Ray

Afghanistan, by Ahmad Ali Motamedi

USSR and Eastern European Countries, by G. M. Bongard-Levin

Western European Countries, by Hubert Durt

North and South America

Part I. Far East, by Marilyn M. Rhie

Part II. India, Central and Southeast Asia, by Joanna Williams

The Present State of Research on Cultural Development in Japan

The Present State and Some Problems of Oral Tradition Studies in Japan

3. 資料の調査・収集

A. 資料調査

本事業は東アジア諸国で出版されている東アジア文化に関する東アジア諸国語で書かれた学術書・学術雑誌を調査することを目的としている。本年度は、生田 滋調査資料室長がインドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ、ベトナムへ出張し現地調査をおこなった。

B. 資料の収集・整理

本年度は、鹿児島大学ビルマ学術調査隊が昭和48年度に現地撮影したビルマ語の歴史資料のマイクロ・フィルムのコピーを購入し、藪 司郎氏に依頼してその目録を作成した。

また、菅野裕臣氏に依頼して朝鮮語の文献を収集し、その目録カードを作成した。

4. 学術図書出版

A. 東アジア文化研究シリーズ（英文）

松井朔子著「英文学批評家としての夏目漱石」

Matsui Sakuko, *Natsume Sōseki as a Critic of English Literature*, 401p. を刊行した。

B. 専門書シリーズ

ティパコラウォン著 (チャディン・フラッド訳注) 「ラーマ1 世年代記」の編集をおこなった。

5. 研究会

Richard Nelson Frye (アメリカ) 「古代中央アジアにおけるイラン文化」 “Iranian Cultures in Central Asia” (50年1月21日)

モタメディ・ハルコ (アフガニスタン) 「アフガニスタンにおける考古学的発掘の概況」 (50年3月25日)

6. 語学講習会

タイ語講習会

〔日時〕 49年7月15日より8月30日まで。

〔講師〕 松山 納, 中沢郁子, Chintana Pramokechai.

7. 国際交流

A. 海外出張

生田 滋, 49年5月5日より18日まで。インドネシアのバリ島で開催されたユネスコのマレー文化研究計画顧問会議に出席。

49年8月22日より10月1日まで。上記資料調査・収集Aを参照。

後藤 明, 50年2月16日より3月25日まで。上記調査研究Eを参照。

外池明江, 50年1月14日より21日まで。マレーシアのクアラルンプールで開催された学術出版セミナーに参加。

B. 外国人研究者の招聘

Kernal S. Sandhu (シンガポール)【期間】50年3月16日より23日まで。

C. その他

上記事業以外の目的でセンターを訪れ、センターが便宜供与した外国人研究者は以下のとおりである。

- Dr. Adriana Boscaro: Teaching staff, Università degli Studi di Venezia
Mr. Chiang Shu-shêng: Assit. Professor, College of Chinese Culture, Taipei,
and Visiting Assit. Professor, Tenri University
Mr. Mete Tunçoku: Student, Graduate School, Faculty of Law, Kyoto University
Dr. Fang Hac: Member, Academia Sinica, Taipei
H.H.the Sakya Tri zin Dolma Phodang: The Sakya Centre, Rajpur
Rev. Sang Gye la: The Sakya Centre, Rajpur
Rev. Chos Wang Trulku: The Sakya Centre, Rajpur
Dr. Lo-shu Fu: Professor, Duquesne University, Pittsburgh
Miss Ma. Teresa U. Estrella: Unesco National Commission of the Philippines,
Manila
Mr. Zohdan B. Omar: Organiser of School Libraries, Education Department,
Johor
Miss Kee Yeh Siew: Librarian, Technical Services Division, National Library,
Singapore
Dr. Georges Condominas: CeDRASEMI, Paris
Dr. & Mrs. Chêng Tê-kwan: Professor, The Chinese University of Hong Kong
Dr. Jao Tsung-i: Professor in Chinese Literature, The Chinese University of
Hong Kong
Dr. Ch'ü Chih-jên: Director, the Museum, The Chinese University of Hong
Kong
Dr. Chiu Ling-yeong: Professor, The Chinese University of Hong Kong
Mr. Amadio Antonio Arboleda: International Section, University of Tokyo Press
Miss Krisna Sinchai: Chief Librarian, Ministry of Education's Library, Bangkok
Mr. Kyaw Oo: Burmese Section, Radio Japan, NHK, Tokyo
Prof. and Mrs. Wun: Visiting Professor, Osaka University of Foreign Studies
Mr. Aung Khin: Student, Tokyo University of Education
Mrs. Helga Burger-Werlé: The Hong Kong Arts Centre

V 業務報告

1. 庶務報告

A. 財団法人東洋文庫理事会・評議員会

理事会

- 第206回 開催日 昭和49年5月28日(火)
出席者 辻直四郎, 榎一雄, 小笠原光雄, 河野六郎, 酒井杏之助,
高垣寅次郎, 山本達郎
委任状 有光次郎, 川北禎一, 徳川宗敬, 松本重治, 岡東浩
- 第207回 開催日 昭和49年8月2日(金)
臨時持廻り
- 第208回 開催日 昭和49年10月3日(木)
臨時持廻り
- 第209回 開催日 昭和49年11月26日(火)
出席者 辻直四郎, 榎一雄, 河野六郎, 高垣寅次郎
委任状 有光次郎, 小笠原光雄, 川北禎一, 酒井杏之助, 徳川宗敬,
松本重治, 山本達郎
- 第210回 開催日 昭和50年2月7日(火)
臨時持廻り

評議員会

- 第93回 開催日 昭和49年5月28日(火)
委任状 岡本道雄, 久野洋, 中山素平, 長谷川周重, 林健太郎,
俣野健輔, 村井資長

B. 東洋学連絡委員会

- 前期 開催日 昭和49年5月21日(火)
議題 1. 昭和48年度財団法人東洋文庫事業報告について

2. 昭和49年度財団法人東洋文庫事業計画案について
- 後期 開催日 昭和49年10月29日（火）
- 議 題 1. 昭和49年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
2. 昭和50年度財団法人東洋文庫事業計画案について

③. ユネスコ東アジア文化研究センター運営委員会・顧問会議

運営委員会

- 前期 開催日 昭和49年5月21日（火）
- 報 告 1. 人事について
2. 昭和48年度事業報告及び決算報告について
3. マレー文化研究顧問会議出席について
- 議 題 1. 昭和49年度事業計画案及び予算案について
2. 運営委員の改選について
3. 昭和50年度の事業計画について
- 後期 開催日 昭和49年10月29日（火）
- 報 告 1. 昭和49年度業事及び会計中間報告について
2. 生田 滋研究員の東南アジア出張報告について
3. 文部省の機構改革について
- 議 題 1. 昭和50年度概算要求について
2. アジアの口碑伝承に関する研究について
3. 人事について

顧問会議

- 開催日 昭和49年5月21日（火）
- 報 告 1. 人事について
2. 昭和48年度事業報告及び決算報告について
3. 昭和49年度事業計画案及び予算案について
4. 運営委員の改選について
- 議 題 1. 昭和50年度の事業計画について

D. 東洋文庫維持会

本維持会は、財団法人東洋文庫の事業を援助発展させることを目的として結成され

たもので、現在の会員は下記の通り47社である。会員には普通会員（個人）、賛助会員（個人又は法人団体）、及び特別会員があり、特別会員を除き年会費（普通会員1口5千円以上、賛助会員1口50千円以上）を納入する。

東洋文庫維持会会員名簿

三菱重工業株式会社	三菱化工機株式会社
株式会社三菱銀行	三菱樹脂株式会社
旭硝子株式会社	三菱製鋼株式会社
三菱化成工業株式会社	三菱製紙株式会社
三菱金属株式会社	三菱モンサント化成株式会社
三菱商事株式会社	三菱油化株式会社
三菱地所株式会社	三菱アルミニウム株式会社
三菱石油株式会社	三菱自動車工業株式会社
三菱電機株式会社	日本光学工業株式会社
三菱レイヨン株式会社	小田急電鉄株式会社
三菱鋳業セメント株式会社	株式会社伊勢丹
日本郵船株式会社	株式会社西武百貨店
三菱信託銀行株式会社	株式会社日立製作所
三菱倉庫株式会社	戸田建設株式会社
明治生命保険相互会社	東亜燃料工業株式会社
株式会社竹中工務店	日本信託銀行株式会社
千代田化工建設株式会社	富士紡績株式会社
東京急行電鉄株式会社	本田技研工業株式会社
日興証券株式会社	日産火災海上保険株式会社
麒麟麦酒株式会社	東亜建設工業株式会社
三菱自動車販売株式会社	エーザイ株式会社
東京海上火災保険株式会社	精工産業株式会社
三菱アセテート株式会社	誠和株式会社
三菱瓦斯化学株式会社	

（昭和50年3月31日現在 敬称略・順不同）

2. 人事報告

役員異動

異動月日	役職名	氏名	就退区分	備考
49. 4. 1	理事長	辻直四郎	就任	日本学士院会員

ユネスコ東アジア文化研究センター役員異動

異動月日	役職名	氏名	就退区分	備考
49. 4. 1	所長	榎一雄	就任	財団法人東洋文庫専務理事 国立国会図書館支部東洋文庫長
49. 4. 1	副所長	河野六郎	〃	東京教育大学教授 財団法人東洋文庫理事
49. 5. 7	運営委員	広長敬太郎	退任	文部省日本ユネスコ国内委員会事務局次長
〃	〃	窪徳忠	〃	東京大学東洋文化研究所長
〃	〃	高柳信一	〃	東京大学社会科学研究所長
〃	〃	河野健二	〃	京都大学人文科学研究所長
〃	〃	徳永康元	〃	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所長
49. 5. 8	〃	西宮一	就任	文部省日本ユネスコ国内委員会事務局次長
〃	〃	佐伯有一	〃	東京大学東洋文化研究所長
〃	〃	渡辺洋三	〃	東京大学社会科学研究所長
〃	〃	林屋辰三郎	〃	京都大学人文科学研究所長
〃	〃	北村甫	〃	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所長
49. 5. 26	参与	石田幹之助	逝去	日本学士院会員 国学院大学教授
49. 7. 29	顧問	西田亀久夫	退任	文部省日本ユネスコ国内委員会事務総長
49. 7. 30	〃	木田宏	就任	同上
49. 10. 26	運営委員	一又正雄	逝去	明星大学教授
49. 11. 8	〃	梅棹卓夫	就任	国立民族学博物館々長
49. 12. 23	顧問	原田淑人	逝去	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	参与	内川芳美	退任	東京大学新聞研究所長
50. 3. 31	〃	佐々木誠治	〃	神戸大学経済経営研究所長

職員異動

異動月日	役職名	氏名	就退区分	備考
49. 6. 30	作業員	白倉豊松	退職	
49. 7. 1	〃	稲村優	就職	
49. 7. 31	研究助手	二瓶幸子	退職	
49. 12. 23	研究顧問	原田淑人	逝去	
50. 1. 31	事務助手	星野景子	退職	

3. 会計報告

昭和49年度財団法人東洋文庫収支決算書

昭和50年3月31日現在

収入の部		支出の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
一般会計		一般会計	
維持費収入	27,126,238	経常業務費	45,500,000
寄附収入		人事費	34,338,295
財産収入	6,706,127	東洋学連絡費	11,161,705
事業収入	16,129,797	東洋学連絡費	33,518,104
雑収入	675,234	東洋学連絡費	120,030
前年度繰越金	127,406	東洋学連絡費	5,445,299
国庫補助金	28,383,000	東洋学連絡費	16,181,216
		東洋学連絡費	4,494,820
		東洋学連絡費	641,665
		東洋学連絡費	1,620,000
		東洋学連絡費	5,015,074
		東洋学連絡費	129,698
小計	79,147,802	小計	79,147,802
特別会計		特別会計	
ユネスコ東アジア文庫補助金	51,069,615	ユネスコ東アジア文庫補助金	51,069,615
ユネスコ東アジア文庫補助金	49,277,000	ユネスコ東アジア文庫補助金	32,083,447
ユネスコ東アジア文庫補助金	1,275,000	ユネスコ東アジア文庫補助金	27,235,708
ユネスコ東アジア文庫補助金	12,180	ユネスコ東アジア文庫補助金	4,847,739
ユネスコ東アジア文庫補助金	505,435	ユネスコ東アジア文庫補助金	18,986,168
ユネスコ東アジア文庫補助金	9,420,000	ユネスコ東アジア文庫補助金	83,870
ユネスコ東アジア文庫補助金	9,600,000	ユネスコ東アジア文庫補助金	7,127,094
ユネスコ東アジア文庫補助金		ユネスコ東アジア文庫補助金	4,900,019
ユネスコ東アジア文庫補助金		ユネスコ東アジア文庫補助金	2,992,315
ユネスコ東アジア文庫補助金		ユネスコ東アジア文庫補助金	2,933,174
ユネスコ東アジア文庫補助金		ユネスコ東アジア文庫補助金	452,019
ユネスコ東アジア文庫補助金		ユネスコ東アジア文庫補助金	497,677
ユネスコ東アジア文庫補助金		ユネスコ東アジア文庫補助金	9,420,000
ユネスコ東アジア文庫補助金		ユネスコ東アジア文庫補助金	6,690,000
ユネスコ東アジア文庫補助金		ユネスコ東アジア文庫補助金	230,000
ユネスコ東アジア文庫補助金		ユネスコ東アジア文庫補助金	2,500,000
ユネスコ東アジア文庫補助金		ユネスコ東アジア文庫補助金	9,600,000
小計	70,089,615	小計	70,089,615
合計	149,237,417	合計	149,237,417

国庫補助金年度別受入額一覧表

年度別	一般会計	特 別 会 計			合 計
		ユネスコ アジア文化研究 センター会計	東ア 研究 会 計	科学研究費 補助金会計	
		千円	千円	千円	
22	320	—	—	—	320
23	600	—	—	—	600
24	720	—	—	—	720
25	530	—	—	—	530
26	350	—	—	—	350
27	600	—	—	—	600
28	1,000	—	4,500	4,500	5,500
29	1,000	—	1,000	1,000	2,000
30	3,850	—	4,000	4,000	7,850
31	6,850	—	1,700	1,700	8,550
32	6,850	—	1,700	1,700	8,550
33	6,850	—	0	0	6,850
34	6,765	—	4,500	4,500	11,265
35	6,562	—	4,800	4,800	11,362
36	6,000	10,000	3,300	13,300	19,300
37	6,000	11,000	1,700	12,700	18,700
38	6,000	12,000	1,700	13,700	19,700
39	7,828	12,571	2,450	15,021	22,849
40	8,382	12,550	7,515	20,065	28,447
41	9,500 (9,166)	14,500 (14,257)	8,040	22,297	31,463
42	11,500 (10,901)	16,000 (15,622)	6,360	21,982	32,883
43	11,500	16,700	9,900	26,600	38,100
44	13,500 (13,236)	21,700 (21,466)	6,820	28,286	41,522
45	15,300 (14,827)	24,500 (24,061)	6,900	30,961	45,788
46	17,200 (16,659)	27,600 (27,177)	13,900	41,077	57,736
47	19,000 (18,377)	31,000 (30,430)	11,000	41,430	59,807
48	25,000 (24,173)	39,500 (38,636)	3,300	41,936	66,109
49	29,000 (28,383)	50,000 (49,277)	9,420	58,697	87,080
50	33,000	58,000	14,040	72,040	105,040

下段記入の（ ）内は決算額

附 役 職 員 名 簿

昭和50年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理 事 長	辻 直四郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
専 務 理 事	榎 一 雄	国立国会図書館支部東洋文庫長 財団法人東洋文庫研究部長 東京大学名誉教授
理 事	有 光 次 郎	東京家政大学学長
〃	小笠原 光 雄	株式会社三菱銀行相談役
〃	川 北 禎 一	株式会社日本興業銀行相談役
〃	河 野 六 郎	東京教育大学教授
〃	酒 井 杏之助	株式会社第一勧業銀行相談役
〃	高 垣 寅次郎	一橋大学名誉教授 日本学士院会員
〃	徳 川 宗 敬	神宮大宮司 社団法人日本博物館協会会長
〃	松 本 重 治	財団法人国際文化会館理事長
〃	山 本 達 郎	国際基督教大学教授 日本学士院会員 東京大学名誉教授
監 評 議 員	岡 東 浩	東山農事株式会社相談役
〃	梅 原 末 治	京都大学名誉教授
〃	岡 本 道 雄	京都大学学長
〃	久 野 洋	慶応義塾大学塾長
〃	中 山 素 平	株式会社日本興業銀行会長
〃	長谷川 周 重	住友化学工業株式会社社長
〃	林 健太郎	東京大学総長
〃	前 田 敏 男	京都大学学長
〃	俣 野 健 輔	飯野海運株式会社社長
〃	村 井 資 長	早稲田大学総長

2. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏名	現職
委員長	辻直四郎	(前出)
委員	板野長八	広島修道大学教授 広島大学名誉教授
"	岩生成一	法政大学教授 日本学士院会員
"	江上波夫	上智大学教授 東京大学名誉教授
常任委員	榎一雄	(前出)
委員	貝塚茂樹	京都大学名誉教授
"	鈴木俊	中央大学教授
"	塚本善隆	仏教大学教授
"	長尾雅人	鉄工短期大学教授 京都大学名誉教授
"	福井康順	大正大学学長 早稲田大学名誉教授
"	松本信広	慶応義塾大学講師 慶応義塾大学名誉教授
"	宮崎市定	京都大学名誉教授
"	森鹿三	仏教大学教授 京都大学名誉教授
常任委員	山本達郎	(前出)
委員	吉川幸次郎	日本芸術院会員 京都大学名誉教授

3. 名誉研究員

氏名	現職
W. T. デ=バリエ	コロンビア大学教授
P. ドゥミエヴィユ	フランス学士院会員, 元コレージュ・ド・フランス教授
S. エリセーエフ	ソルボンヌ大学教授, 元ハーバード・エンチン研究所長
W. フックス	元ケルン大学教授
B. カルルグレン	元スウェーデン王立極東古代博物館長
E. O. ライシャワー	ハーヴァード大学教授, 元駐日アメリカ大使
W. サイモン	イギリス学士院会員, 元ロンドン大学教授
G. トウッチ	ローマ大学教授, イタリア中東亜研究所長
A. フォン=ガペイン	元ハンブルグ大学教授
A. R. デイヴィス	シドニー大学教授
J. ゼルネ	第7パリ大学教授, フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授

4. ユネスコ東アジア文化研究センター役員

A. 運営委員

氏名	現職
市村真一	京都大学東南アジア研究センター所長
伊藤良二	ユネスコアジア文化センター理事長
岩佐成一	(前出)
梅棹忠夫	国立民族学博物館長
岡野澄	日本学術振興会専務理事
尾高邦雄	上智大学教授 東京大学名誉教授
笠木三郎	文部省学術国際局審議官
鹿子木昇	アジア経済研究所長
北村甫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所長
今日出海	国際交流基金理事長
佐伯有一	東京大学東洋文化研究所長
高田修	成城大学教授
中村元	東方学院長 東京大学名誉教授
西宮一	文部省学術国際局ユネスコ国際部長
服部四郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
林屋辰三郎	京都大学人文科学研究所長
福井康順	(前出)
前田陽一	国際文化会館専務理事 東京大学名誉教授
松本信広	(前出)
弥永貞三	東京大学史料編纂所長
山本達郎	(前出)
吉川幸次郎	(前出)
渡辺洋三	東京大学社会科学研究所長

B. 顧 問

氏 名	現 職
大 浜 信 泉	日本学士院会員
木 田 宏	文部省学術国際局長 日本エネスコ国内委員会事務総長
東 畑 精 一	日本学士院会員 東京大学名誉教授
久 松 潜 一	日本学士院会員 東京大学名誉教授
平 塚 益 徳	日本ユネスコ国内委員会会長
前 田 充 明	城西大学学長
宮 沢 俊 義	日本学士院会員 東京大学名誉教授

C. 参 与

氏 名	現 職
青 山 秀 夫	京都大学名誉教授
岩 淵 悦太郎	国立国語研究所長
織 田 武 雄	京都大学名誉教授
海 後 宗 臣	東京大学名誉教授
鈴 木 俊	(前 出)
田 村 実 造	京都女子大学教授 京都大学名誉教授
都 留 重 人	一橋大学学長
長 尾 雅 人	京都大学名誉教授
丸 山 真 男	東京大学講師
三 上 次 男	青山学院大学教授 東京大学名誉教授
宮 崎 市 定	(前 出)
宮 本 正 尊	東京大学名誉教授

5. 職 員

研 究 部

榎 一雄 (部長, 前出), 岩村 忍 (研究顧問, 京都大学名誉教授), 村田治郎 (研究顧問, 京都大学名誉教授), 青山定雄 (聖心女子大学講師), 荒 松雄 (東京大学教授), 市古宙三 (お茶の水女子大学教授), 岩生成一 (前出), 宇都木 章 (青山学院大学教授), 梅原末治 (前出), 岡田英弘 (東京外国語大学助教授), 長 正統 (九州大学助教授), 亀井 孝 (一橋大学教授), 川崎信定 (東方学院講師), 神田信夫 (明治大学教授), 菊池英夫 (北海道大学助教授), 北村 甫 (東京外国語大学教授), 草野 靖 (熊本大学助教授), 河野六郎 (前出), 後藤均平 (立教大学教授), 佐伯 富 (京都大学教授), 酒井憲二 (山梨県立女子短期大学助教授), 滋賀秀三 (東京大学教授), 末松保和 (学習院大学教授), 鈴木 俊 (前出), 周藤吉之 (東洋大学教授, 東京大学名誉教授), 関野 雄 (東京大学教授), 田川孝三 (日本大学講師), 田中時彦 (東海大学教授), 田中正俊 (東京大学教授), 竺沙雅章 (京都大学助教授), 辻 直四郎 (前出), 鶴見尚弘 (山梨県立女子短期大学助教授), 鳥海 靖 (東京大学助教授), 中嶋 敏 (大東文化大学教授, 東京教育大学名誉教授), 永田雄三 (東京外国語大学助手), 坂野正高 (東京大学教授), 藤枝 晃 (京都大学教授), 松村 潤 (日本大学教授), 松本信広 (前出), 三根谷 徹 (東京大学教授), 護雅夫 (東京大学教授), 山口瑞鳳 (東京大学助教授), 山崎元一 (国学院大学助教授), 山根幸夫 (東京女子大学教授), 山本達郎 (前出), 小野田サヨ子, 金子良太, ケツンサンポ, 祖南 洋, 土肥義和, 本庄比佐子

図 書 部

榎 一雄 (部長, 前出)* 池田直人, 大塚祐子, 小林輝男, 小山 勲, 竹之内信子, 児野寿満子, 秩父良子, 中島正之, 西菌一男, 西 菌利子, 広瀬洋子, 森岡康, 渡辺兼庸

総 務 部

早船艶雄 (部長), 稲村 優, 宇田川善吉, 染谷コウ, 平野 豊, 光田憲雄, 谷治嘉紀

ユネスコ東アジア文化研究センター

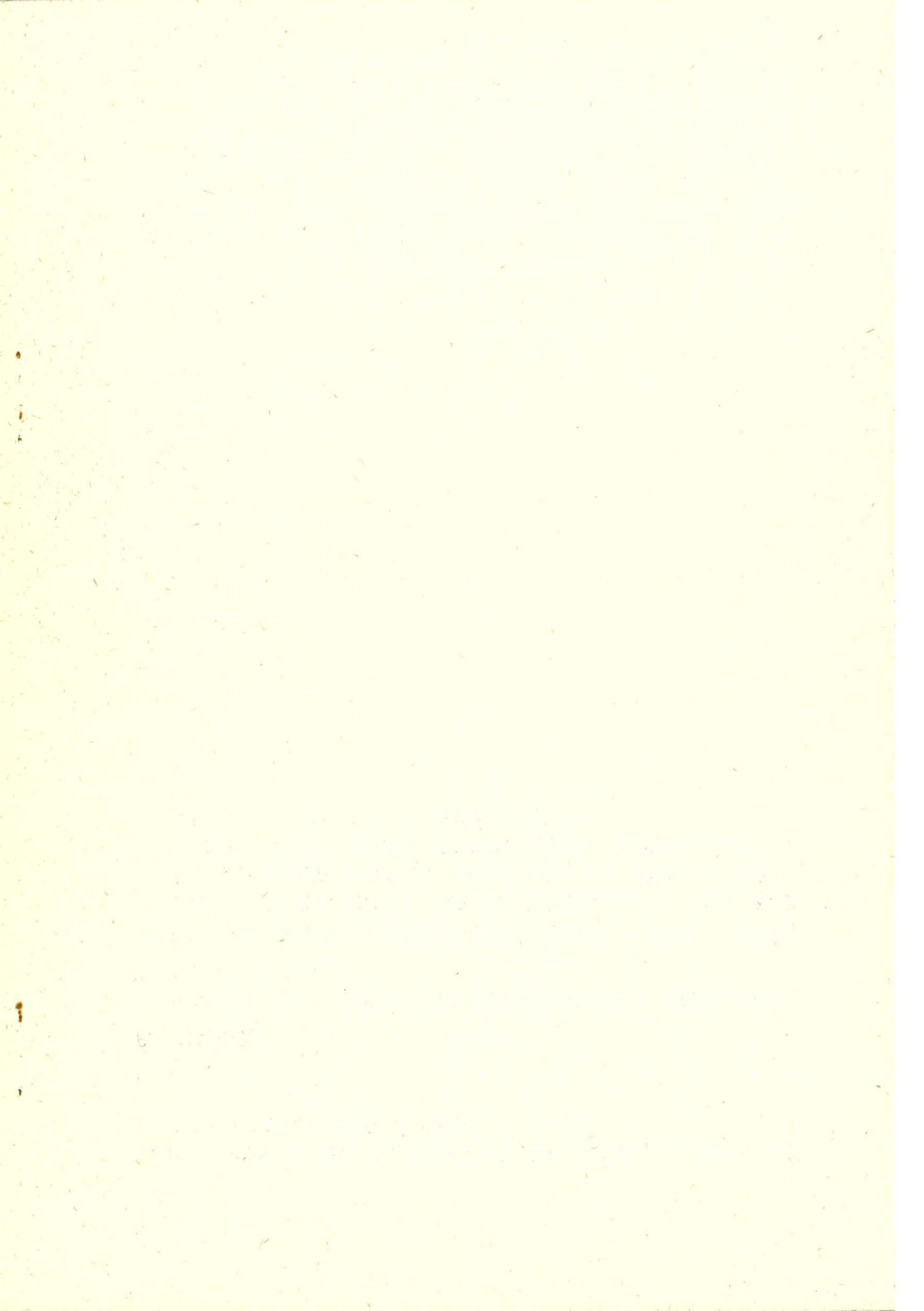
榎 一雄 (所長, 前出), 河野六郎 (副所長, 前出), Nguyen Khac Kham (専

門員), 生田 滋, 後藤 明, 外池明江, 土肥義和, 直井靖夫, 西山敬子, 広瀬
洋子, 藤井敏江, 松前義治, 森田嗣子

6. 臨時職員

昭和49年4月1日から昭和50年3月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は,
以下のとおりである。

相沢真知子, 飯島明子, 飯田隆子, 今枝由郎, 大嶋立子, 大須賀聖子, 大橋紀子,
加藤恭子, 兼松明子, 川口 平, 小池 都, 貞兼綾子, 真田 安, 設楽國廣, 鈴
木恵子, 竹内久美子, 塚本千枝子, 内藤和之, 中見立夫, 中村光宏, 中山皎子,
林 俊雄, 馬場邦子, 福島輝己, 藤井陽子, 古沢宣子, 星 実千代, 松本浩一,
宮内陽子, 三好 章, 山口 整, 山名弘史, 横倉春恵



財団法人 東洋文庫年報 昭和49年度

昭和51年3月10日発行 非売品

発行者 東京都文京区本駒込 2-28-21
財団法人 東洋文庫
榎 一 雄

印刷者 東京都中央区湊 2-2-4
株式会社 第一印刷所

発行所 東京都文京区本駒込 2-28-21
財団法人 東洋文庫

本書は昭和50年度財団法人東洋文庫に対する文部省補助金の一部によって刊行されたものである。

THE UNIVERSITY OF CHICAGO
LIBRARY
540 EAST 57TH STREET
CHICAGO, ILL. 60637
TEL: 773-936-3200
WWW.CHICAGO.EDU